



## Outline

|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 設置学科  | グローバル教養学科                                                                                      |
| 専攻    | RU-ANU専攻 *                                                                                     |
| 取得学位  | 立命館大学 (RU) : 学士 (グローバル教養学)<br>オーストラリア国立大学 (ANU) : 学士 (アジア太平洋学)                                 |
| 入学時期  | 4月/9月                                                                                          |
| キャンパス | 4月入学<br>Semester 1, 2, 3, 6, 7, 8 : RU 大阪いばらきキャンパス<br>Semester 4, 5 : ANU Acton Campus (キャンベラ) |
|       | 9月入学<br>Semester 1, 2, 3, 4, 7, 8 : RU 大阪いばらきキャンパス<br>Semester 5, 6 : ANU Acton Campus (キャンベラ) |
| 修業期間  | 4年間                                                                                            |
| 入学定員  | 100名<br>(ANUで履修を開始する10名を含みます)                                                                  |

\* 立命館大学 (RU) 入学時は全員RU-ANU 専攻の学修を行います。入学後、オーストラリア国立大学 (ANU) の入学審査結果などにより、シングルディグリートラックであるRU 専攻へ転じることがあります。

## Information



グローバル教養学部  
ritsumeai.ac.jp/gla/



入試情報やイベントの  
最新情報

入試情報サイト  
ritsnet.ritsumeai.jp



## CONTACT

立命館大学 グローバル教養学部教育課程G OIC事務室  
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150 / Email: glapost@st.ritsumeai.ac.jp / Tel: 072-665-2492

・ Publication Version [April, 2026] 本冊子に掲載されている内容は発行時のものです。最新の情報は GLA のホームページをご確認ください。ritsumeai.ac.jp/gla/  
・ 本冊子の内容は、立命館大学グローバル教養学部で募集する学生を対象にした情報です。

Study in Japan and Australia

# College of Global Liberal Arts

立命館大学 グローバル教養学部



Australian  
National  
University

2027

# That's why GLA

グローバル教養学部（GLA）体験記

対話で学び、挑戦を重ねたい人に  
最適な環境です。

丹沢 まどか さん グローバル教養学部 2回生  
茗溪学園高校出身

## GLAに入学した理由

私は高校時代の国際バカロレア (IB) の経験から、大学選びでは知識を一方的に受け取るのではなく、対話や議論を通じて思考を深められる環境を重視していました。そうした中でGLAの少人数かつ英語での双方向型の授業や多様な背景を持つ学生達と共に学べる環境に惹かれました。また、分野の枠を超えて幅広く学べるカリキュラムやANUへの留学プログラムもGLA進学のための大きな決め手の一つでした。将来は直接的あるいは間接的にテロ・紛争解決に繋がる活動に携わりたいと考えています。

## GLAの学びの醍醐味

1 回生の間は、関心分野で基礎を固めつつ、これまで学ぶ機会のなかった分野にも挑戦しました。Special Lecture (Social Sciences): Global Affairs from the Developing World: Local Perspectiveの授業ではネパールの政策課題を探究し、ネパール政府への政策提言を作成しました。現地の大学生とも共同し、現地の声を踏まえた多角的で現実に即した視点から課題に取り組むことができました。さらに夏にはネパールへフィールドワークに赴き、理論と現実の課題の両方を扱いつつ政策を考える貴重な学びの場となりました。Special Lecture (Arts and Humanities): Modern History of Japanでは、日本の近現代史について、当時の人々が残した資料や博物館展示をもとに時代背景を考えながら自ら分析しつつ、ディスカッションを通じて多角的に学びました。多様なバックグラウンドや国籍を持つクラスメイトとの議論を通じてそれぞれの価値観を知り、世界から過去および現在の日本がどのように見られているのかについてこれまでにない気づきを得ました。GLAの少人数の授業では、意見を交わしながら議論する機会が多く、多角的な視点で物事をとらえられるようになりました。

## 受験生へのメッセージ

GLAには、少人数の対話型授業で自分の考えを深め、分野横断的に学びながら、学んだことを学外の現場に赴いて確かめる機会があります。また、OICグローバルハウス (国際寮) は、多様なバックグラウンドを持った友人と出会える良い環境です。友人と切磋琢磨しつつ、共に過ごす中で互いのことを知り、より良い関係を作れる場所でもあります。GLAは、対話を通じて学び、挑戦を重ねたい人に最適な環境だと思います。



日本とオーストラリアで、  
多様な視点をもって学べるのがGLAの魅力です。

マイネハン ブランドン真 さん グローバル教養学部 4回生  
名古屋国際高校出身

## GLAに入学した理由

オーストラリア人の父を持つ自分にとって、日本とオーストラリアの両方につながりを持ちながら学べるGLAの環境はとても魅力的でした。高校では国際バカロレア (IB) で学んでいたため、大学でも英語で経済や政治への関心を深めたいと思っていました。特に、ANUとのデュアル・ディグリー・プログラムを通して両国で正規授業を受け、二つの学位で卒業できる点には強く心を動かされました。また、GLAの学生同士で寮生活をともにできると聞き、問題関心の近い仲間と学べる環境にも惹かれました。

## GLAの学びの醍醐味

GLAでの学びの醍醐味は、日本とオーストラリアという異なる環境で、多様な視点を行き来しながら学べることです。ANUでは、アジア太平洋の国際情勢、政治、歴史、制度の違いを軸とした授業を集中的に受講しました。授業時間の長さや課題の量に圧倒されることもありましたが、その分「国際関係は国ごとの視点の違いの上に成り立っている」ということを、知識としてだけでなく、実感として理解できました。他方で、ある国で起きている資源をめぐる対立について学んだあとに、他の国々でも起きている同様の問題について調べてみると、資源対立をめぐる国内政治の課題に共通点があることも見えてきます。資源や領土をめぐる利害対立の構造、制度設計の難しさ、コミュニティの権利意識の強さなど、国や地域の違いにもかかわらず人々が直面する問題の構造は似ていることに気がつきます。こうした「つながり」を意識しながら学ぶことで、地域ごとの専門知識が深まるだけでなく、アジア太平洋全体を総体的に捉える視点も養われました。また、GLAとANUという異なるスタイルの授業を経験したことで、自分が本当に興味を持つ分野や学び方をより深く理解できたことも、大きな成長につながったと感じています。

## 受験生へのメッセージ

GLAでの学びは、自分が本当に興味を持つことを見つけるきっかけになります。日本とオーストラリアという異なる環境で学ぶことで、視点の違いや価値観の幅広さを自然と身につけることができますし、授業で扱うテーマは国際関係・安全保障・経済など世界のニュースと密接に関係しており、授業での学びを通じて日常の出来事をより深く理解できるようになります。大変なこともあります。その分だけ成長を実感できる環境です。世界に目を向けながら、自分の興味や将来を形にしたい人にとって、GLAは必ず大きな力になるはずです。

# Graduate with 2 degrees from 2 universities

OIC  
SAKURA

## History

**125+**  
Years

## Ritsumeikan University

立命館大学(RU)は、創始155年・学園創立125年以上の長い歴史と伝統をもつ私立総合大学です。京都・滋賀・大阪にキャンパスを構え、社会科学・人文科学・自然科学にまたがる17の学部と22の研究科をもち、学生数は約38,000人です。全世界69カ国・地域、471校の大学と協定を締結しており、約3,000人(2025年現在)の留学生が集っています。また、海外の大学と立命館大学の両方で学ぶ学部・学科や全ての科目英語で学ぶ専攻など、様々なグローバル教育を展開しています。立命館大学には、文化や言葉の違いを超えて世界の人々と協働する力、世界にイノベーションを生み出すことのできる力を育む環境があります。



## The Australian National University



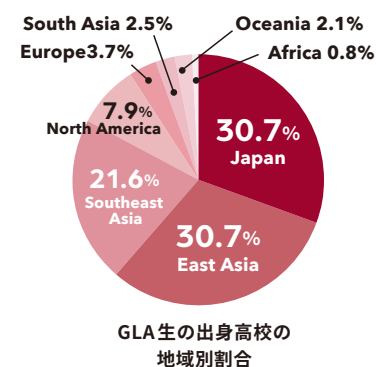
ANUは、1946年に設立されたオーストラリア唯一の国立大学であり、世界が直面する課題解決に重きを置く、研究集中型の大学です。各種世界大学ランキングで上位に格付けされており、オーストラリア首相やノーベル賞受賞者等、数々の著名人を輩出していることでも有名です。ANUのメインキャンパスは、オーストラリアの首都キャンベラの中心地にあります。自然美あふれる公園のように美しいキャンパスには、世界100か国から集まった約17,000名の学生が学び、研究に励んでいます。

**Australia's  
Leading  
University**

## Global Network

471 Universities  
and Institutions  
in 69 Countries  
and Regions

## College of Global Liberal Arts



グローバル教養学部 (GLA) は、2019年4月に大阪いばらきキャンパスに開設された学部です。名門オーストラリア国立大学 (ANU) College of Asia and the Pacificと連携し、4年間でRUとANUの2つの学位取得を目指す、デュアル・ディグリー・プログラムを実施しています。RUでは、文理にまたがる幅広い知識を実際の社会の発展に役立てていく具体的な方法論としてのリベラル・アーツを、ディスカッション・ベースの実践的な方法で徹底的に鍛えます。ANUでは、世界中から集う優秀な学生とともに、アジア太平洋の国際関係学を専門的に学びます。GLAは、世界中から集まった学生みなさんのグローバル・キャリアを、全力で応援します。

## ANU College of Asia and the Pacific

GLAのパートナーであるANU College of Asia and the Pacificは、アジア・太平洋地域研究のスペシャリストが数多く集まる、英語圏で最大規模の研究拠点です。オーストラリア国内の公共政策に関する専門知見を提供するだけでなく、アジア・太平洋地域の社会・文化・経済に関する知の資源として重要な役割を担っています。また、GLA生の留学先であるCoral Bell School of Asia Pacific Affairs (通称: Bell School) は、卓越した研究力と教育力で、世界やアジア太平洋地域の政治学、安全保障、外交、戦略立案に関する研究、教育、政策分析で世界をリードしています。



**#11**  
in the World  
for Politics

\*QS World University Rankings  
2025

**#32**  
in the World

\*QS World University Rankings  
2026

# Define yourself and make a difference to the world

## 英語を話すその先へ、 世界を変える「私」になるために。

Global Citizen

### KEY FEATURES

#### オーストラリア国立大学(ANU)との デュアル・ディグリー・プログラム(DDP)

立命館大学(RU)はANUのCollege of Asia and the Pacificと提携し、全て英語による4年間の授業を通じて両大学の所定の条件を満たし単位を取得すると、卒業時にRUの学士(グローバル教養学)とANUの学士(アジア太平洋学)の2学位を取得できるプログラムを提供しています。4月入学の場合は2回生の秋学期から3回生の春学期まで、9月入学の場合は3回生でANUに留学予定ですが、留学前後のセメスターでは、大阪いばらきキャンパス(OIC)でRUとANUの授業を同時に受講します。なお、2回生から始まるANUの科目を履修するためには、ANUによる入学審査を受ける必要があります。

#### 知識を活かすための知の技法を学ぶ、世界に通ずるリベラル・アーツの学び

RUのカリキュラムでは、「リベラル・アーツ」の名のとおり、文理にまたがるさまざまな学問の基礎を体系的に学びます。哲学や歴史学、政治学、経済学、社会学、カルチュラル・スタディーズ、国際関係論、データサイエンス・AI、経営学、デザイン学、心理学、持続可能エネルギー研究、教育学、障がい学、言語学、マーケティングなどの学びを通じて、知識を社会発展や問題解決に活用するための力を徹底的に鍛えます。

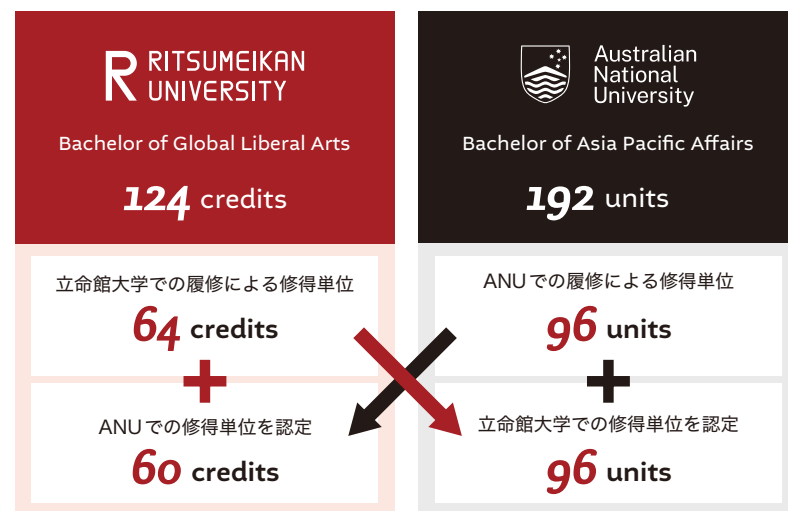
|     |               |       |             |
|-----|---------------|-------|-------------|
| 哲学  | 歴史学           | 政治学   | 経済学         |
| 社会学 | カルチュラル・スタディーズ | 国際関係論 | データサイエンス・AI |
| 経営学 | デザイン学         | 心理学   | 持続可能エネルギー研究 |
| 教育学 | 障がい学          | 言語学   | マーケティング     |

#### ANU College of Asia and the Pacificによる アジア太平洋地域の専門的な学び

ANUのカリキュラムでは、ANU College of Asia and the PacificのCoral Bell School of Asia Pacific Affairs(通称：Bell School)が提供するアジア太平洋地域に関わる科目分野を履修します。Bell Schoolは、卓越した研究力と教育力で、世界やアジア太平洋地域の政治学、安全保障、外交、戦略立案に関する研究、教育、政策分析で世界をリードしています。

#### 4年間で2つの学位を 取得する

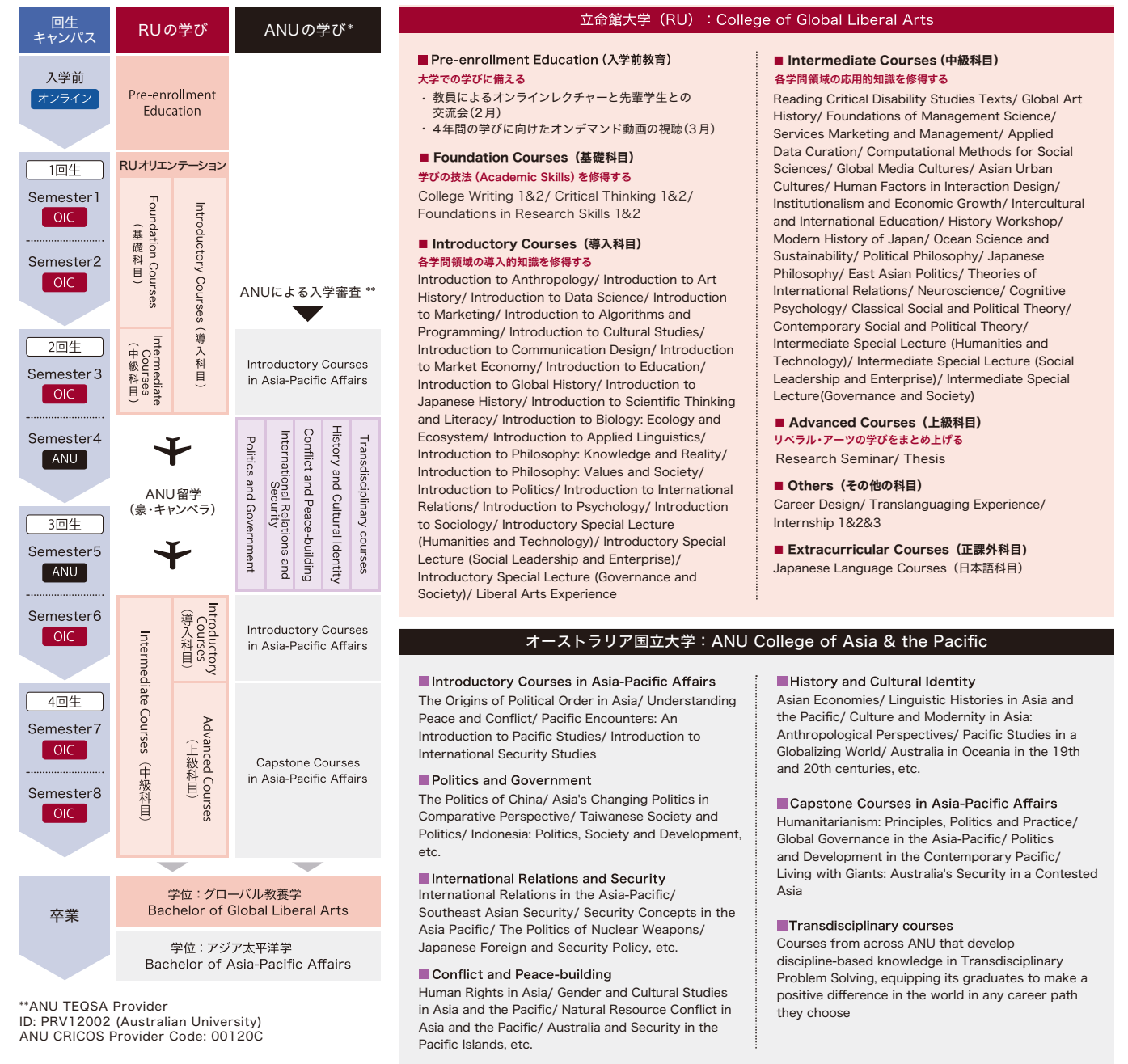
一般的に、RUの学位を取得するためには最低124単位、ANUの学位を取得するためには192ユニットを修得する必要があります。しかし、両大学間の協定により、本プログラムでは、RUの授業で修得した64単位がANUの96ユニットとして認定され、ANUの授業で修得した96ユニットがRUの60単位として認定されます。この仕組みにより、学生はRUの授業64単位ANUの授業96ユニットを修了することで、4年間で、学士(アジア太平洋学)と学士(アジア太平洋学)を取得することができます。



### CURRICULUM

グローバル教養学部(立命館大学)の学びの流れ\*\* [4月入学の場合の例]

\* 詳細はANUウェブサイトでご確認ください。



\*\*ANU TEQSA Provider  
ID: PRV12002 (Australian University)  
ANU CRICOS Provider Code: 00120C

### ANUによる入学審査

ANUによる入学審査は、立命館大学入学後に実施されます。審査により入学が許可された場合、ANUの科目の履修を開始することができ、引き続き、両大学の学位取得を目指します。不合格となった場合、シングル・ディグリー・トラックであるRU専攻において、RUの学士(グローバル教養学)の学位取得を目指すことが可能です。

英語要件：RU入学直後に審査

ANUのポリシー「English language admission requirements and post-admission support」に定められた英語要件を満たしていること。

成績要件：32単位の受講を終えた学期末(原則として2セメスター目の終了時)に審査。立命館大学在籍期間中に一度のみ実施。

RUにおいて、GPAが2.00以上であること。

「英語要件」と「成績要件」の詳細は、グローバル教養学部ウェブサイトでご確認ください。



# Learning at GLA

## GLAの代表的な 5つの学びのスタイル

卒業後の進路を見据えて、文理にまたがる様々な科目を選びながら、自分に合った学修スタイルをテイラーメイドで編み出していくことができます。



## グローバル課題に挑むために、 GLAで“つながる学び”を重ねています

石丸 玲衣子 さん グローバル教養学部 2回生  
高知県立高知国際高等学校出身

中学から高校まで国際バカロレア (IB) で学び、少人数のディスカッションを通して国際課題を探究してきました。地理上級クラスの授業では、アジア太平洋地域での、気候変動による移民問題や食料安全保障問題について学び、将来は気候変動がもたらすグローバルな問題の解決に貢献したいと考えようになりました。複雑な課題に向き合うには、アジア太平洋地域に関する知識に加えて、国際関係・歴史・文化などの、分野の枠を超えた視点が必要だと感じました。そこで私は、ANUでアジア太平洋地域を専門的に、そして立命館大学で幅広い科目を学べるデュアルディグリープログラムのGLAを選びました。

1回生の時に受講した授業で特に印象的だったのは、開発途上地域の視点から国際問題を考えるSpecial Lecture (特殊講義) の授業でした。ネパールをケーススタディとして、開発戦略や海外援助が発展途上国に与える影響について考察しました。国家間という大きなスケールで語られがちな国際関係分野においても、地域コミュニティに目を向け、様々なアク

ターの視点を考慮する重要性を学びました。私たちのリサーチグループは、毎週ネパールの大学生とオンラインで議論を重ね、カトマンズにおける廃棄物管理について研究しました。科目終了後には現地を訪れ、自身の研究を深めました。

課外では学生団体に所属し、ミクロネシア連邦・日本での環境教育に取り組んでいます。また、新入生サポートを行うGLAオリタートンでは、オリエンテーションやパーティーを企画・運営し、新入生支援に励んでいます。また、OICグローバルハウス (国際寮) では、多様なバックグラウンドを持つ学生と一緒に夕食を作ったり、リビングで勉強したりと交流を楽しんでいます。授業後も常に英語で会話できる環境は、私のコミュニケーションスキルをさらに高めてくれています。

# Career

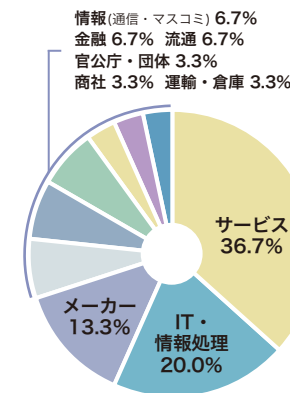
## 自分らしく、世界で活躍する。

英語によるリベラル・アーツの学びを通して、圧倒的な英語力、幅広い教養、そして社会を良くするための課題発見・解決力が養われます。それらの力を身につけたGLA生は、卒業後は国内外のグローバルに展開する大手企業 (IT企業、商社、広告代理店、コンサルタント等) への就職や、オーストラリア国立大学やアメリカ等の世界有数の大学院へ進学しています。大学院で専門性を高めることにより、政府機関・国際機関やNGOなど、世界で活躍するグローバル・キャリアへの道が大きく開かれるでしょう。

### 卒業生 就職・大学院 進学状況

### 大学院進学率 9.2%

- 2024年度卒業生の実績にもとづき算出。
- 端数の関係で100%にならない場合があります。



### 就職先一例

アクセンチュア (株) アマゾンジャパン合同会社 アルファサイト株式会社 伊藤忠商事 (株) 岡三証券 (株) オリックス (株) (株) クボタ ジャパンマテリアル (株) 上海商業銀行有限公司 シンガポール航空会社 スイスポートジャパン (株) ソフトバンク (株) テルモ (株) デジタルアーツ (株) (株) 電通 東海東京フィナンシャル・ホールディングス (株) 長瀬産業 (株) 日本通運 (株) 日本郵船 (株) (株) プログリット メルセデス・ベンツ日本 (株) ロバート・ウォルターズ・ジャパン (株) ダイキン工業 (株) デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社 日本電気 (株) (NEC) 楽天グループ (株)

### 大学院進学先一例

シカゴ大学 ソウル国立大学 オーストラリア国立大学 香港中文大学 メルボルン大学 シドニー大学 東京大学 大阪大学



## GLAで培ったグローバルな人間力や思考力は、 人生の財産です。

桂 萌乃 さん  
株式会社電通 ラジオテレビ局  
(グローバル教養学部 グローバル教養学科 及びオーストラリア国立大学 アジア太平洋学部 2023年卒)

4年間でRUとANUの2つの学位を取得するGLAのデュアル・ディグリー・プログラムの学びは大変でしたが、厳しい状況に置かれながらも、常に成長を続けられる人間力を養えたことや、グローバル・スタンダードの様々な授業を受講したことで、世界の出来事を多角的に考える力が身に付いたことは、人生の財産となりました。卒業後は、哲学の授業で深く学んだ「好きという純粋な気持ちを大事にして人生を選択する」ことを妥協なく追求し、幸せな未来を創造していきたいです。



## 本質を理解する力を強みに、 興味のある分野に積極的に挑戦していきたい。

脇坂 純 さん  
オリックス株式会社 輸送機器事業本部 航空事業グループ  
(グローバル教養学部 グローバル教養学科 及びオーストラリア国立大学 アジア太平洋学部 2024年卒)

大学時代、記憶に残っているのが、ANUの「Global Governance in the Asia Pacific」という授業です。ESG (環境・社会・ガバナンス) やAI、政治、国際紛争など一見関連性がない事柄が、実際には深く結びついていることを学びました。また卒業論文では中国の「双循環戦略」について研究し、日本経済政策学会での発表も経験しました。学びや研究を通じて培った異なるバックグラウンドを持つ人とのコミュニケーションスキルや物事の関連性を考え本質を理解する力は、今の業務にも活かしています。今後も興味のある分野に積極的に挑戦し、新しいことを学び続けていきたいです。



WATCH ON  
YouTube

立命館大学 International Admissions YouTube チャンネルで、学部紹介や卒業生インタビューの動画をご覧いただけます。





# Live & Learn

## OIC Global House for GLA students



赤坂 飛奏 さん  
グローバル教養学部 4年生  
ニュージーランド・  
Garin College出身

### 多国籍の寮生との交流を通して、 コミュニケーションスキルがアップしました。

OICグローバルハウスの魅力は、多国籍の人たちと交流できるところです。共に生活する中で、習慣や文化の違いに自然と触れ、異文化への理解が深まることに加えて、異なるバックグラウンドや価値観を持った人々と日々接することで、視野が広くなり、コミュニケーションスキルが向上しました。語学の上達にとってもよい環境なのは、言うまでもありません。私は中学2年生の2月から高校卒業までの4年間、ニュージーランドに留学していたので、英語力は身につけていますが、寮での会話、グローバル教養学部でのすべて英語による授業、英語での課題提出などによってさらに鍛えられ、留学時よりも伸びていると感じています。

また、立地のよさもこの寮のメリットです。キャンパス内にあるので教室が近く、駅にも近く、スーパーやショッピングモールも近くにあって、買い物にも便利。自炊することが多いので、この点でも助かっています。キッチンや多目的室、ランドリーなどは共用ですが、寮生はそれぞれ個室に住んでいるので、適度なプライバシーが保たれており、自分のペースで暮らせます。とはいえ、共同生活ですから周りへの気遣いも必要です。多様な人たちと同じ空間に暮らす経験を通して、自分を律する自己管理能力も向上したと思っています。

## キャンパス内の国際寮で 生活すべてが学びの場に

OICグローバルハウスは、大阪いばらきキャンパス(OIC)内に2019年に竣工した分林記念館の中にある国際寮です。グローバル教養学部の多くの学生が入寮し、「キャンパスの中で、共に学び、共に暮らす」生活を送っています。個室タイプの寮室を200室用意するとともに、茶室・日本庭園・能舞台を備えた多目的ホール等、日本文化が感じられる多様な国際交流の場を設けています。



詳細は、立命館大学ウェブサイトでご確認ください。▶



## Faculty Members

教員一覧



石原 悠子  
哲学、日本哲学・現象学



糸井 貴夕  
応用言語学、高等教育の国際化、言語教育



小木曾 左枝子  
外国語・第二言語教育、日本語教育



OZTURK U. Aytun  
経営科学、経営工学、オペレーションズ・リサーチ



北野 知佳  
社会言語学、ジェンダー研究、アイデンティティ研究



志村 真弓  
国際関係論・国際政治学、平和研究



JOHNSON Christopher  
哲学、政治哲学・公共哲学



CAPKOVA Helena  
芸術学、美術史



CHUNG-MOYA Emily  
消費者行動研究、マーケティング、ブランディング



塚田 英恵  
教育学、社会公正教育、国際教育交流、多文化共生



THOUNY Christophe  
比較文学、日本視覚文化、都市学



BATOOL Saeeda  
開発経済、男女格差



廣野 美和  
現代中国論、国際関係論



藤田 加代子  
日本史、グローバル・ヒストリー



HAIMES Paul  
美学、インタラクティブアート



堀江 未来  
教育学、異文化間教育、教育政策行政論



MARQUEZ Gian Powell  
海洋科学、再生可能エネルギー研究



MARUTSCHKE D. Moritz  
データサイエンス、教育学、人工知能を活用した学際的研究



森井 一真  
イギリス帝国史、奴隷貿易・奴隷制廃止の歴史、イギリス議会史



山岸 典子  
認知心理学、脳科学



山下 恵理  
障害学、フィリピン地域研究



RASIT Huseyin  
政治社会学、社会理論

## Scholarships

以下の2つの奨学金※1は、デュアル・ディグリー・プログラムでANUに留学するグローバル教養学部生全員が対象となります。

### 立命館大学 海外留学チャレンジ奨学金

給付期間 : ANU留学時の2学期間(1年間)  
金額 : 300,000円

### グローバル教養学部 海外教学プログラム奨学金

給付期間 : ANU留学時の2学期間(1年間)  
金額 : 700,000円

※1 2026年度時点の情報です。入学年度により、内容が変更となる場合があります。

※1 これらの奨学金は供給できますが、立命館大学が定める他の奨学金とは供給できない場合があります。

## Fees

グローバル教養学部の授業料は、以下のとおりです。デュアル・ディグリー・プログラムでオーストラリア国立大学が実施する授業について、授業料の別徴収は行いません。ただし、渡航費・寮費・生活費等は別途必要になります。また、この他に学友会・父母教育後援会の入会金・年会費が必要です。なお、2027年度入学者の学費は変更になる可能性があります。詳細は、立命館大学入試情報サイト(学費・諸会費)でご確認ください。

学費 (2026年度入学者に適用)

(単位: 日本円)

| 1年次     |           |           |           | 2年次以降 ※2  |           |           |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 入学金     | 春セメスター授業料 | 秋セメスター授業料 | 年間計       | 春セメスター授業料 | 秋セメスター授業料 | 年間計       |
| 200,000 | 1,200,000 | 1,200,000 | 2,600,000 | 1,434,000 | 1,434,000 | 2,868,000 |

諸会費 (2026年度入学者に適用)

(単位: 日本円)

| 学友会    |       | 父母教育後援会 |        | 年間計    |
|--------|-------|---------|--------|--------|
| 入会金 ※3 | 年会費   | 入会金 ※3  | 年会費    |        |
| 3,000  | 5,000 | 5,000   | 10,000 | 23,000 |

立命館大学入試情報サイト  
(学費・諸会費) ▶



※2 立命館大学(RU)入学時は全員RU-ANU専攻にて学修します。入学後、オーストラリア国立大学(ANU)の入学審査結果などにより、RU専攻へ転じることがあります。

RU専攻では、2年生以降も1年生時と同額の学費が適用されます。

※3 学友会・父母教育後援会の入会金の納入は、入学年度のみです。